

JPPF

2026-2030

中長期計画

ロスパラへ、連盟の飛躍を目指して

競技力向上 × 普及・地域育成 × 広報・マーケティング × 組織基盤

日本パラ・パワーリフティング連盟

計画期間：2026年度～2030年度



競技の発展から、持続可能な組織へ



日本パラ・パワーリフティング連盟は、1999年の発足以来、競技の普及、競技力の向上、大会の企画・運営を通じて、競技の発展に取り組んできました。

東京2020、パリ2024を経て、次のロサンゼルス2028、さらにブリスベン2032を見据え、選手の発掘・育成と競技力向上を継続します。同時に、競技を支える人材と地域の競技環境を育て、競技の魅力を広く伝え、応援・支援の輪を広げます。

これらの活動を継続するため、安定した財務基盤、人材の確保・育成、適切なガバナンスを整えます。

本計画は、これまでの理念と取組を引き継ぎ、2026年度から2030年度までの5年間に目指す姿と重点的な取組を整理したものです。

**「筋肉で日本を持ち上げる！」というビジョンのもと、
次の5年間の歩みを進めていきます。**

理念

「普及」「競技力向上」「大会の企画・運営・支援」の3つを柱に、障がい者スポーツの振興と、誰もが活躍できる共生社会の実現に寄与する。



普及



競技力向上



大会の企画・運営・支援

ビジョン

筋肉で日本を持ち上げる!

筋肉トレーニングを通じて自らはもちろん、日本のパラスポーツ界全体のレベルアップを後押しし、ひいては日本の障がい者全体の健康と生活力アップに貢献する。

「シャフトのようなJPPF」

芯があり、しなやかに。
違いを受け止め、力をつなぎ、
互いの力を生かして、ともに大きな力を生み出す。



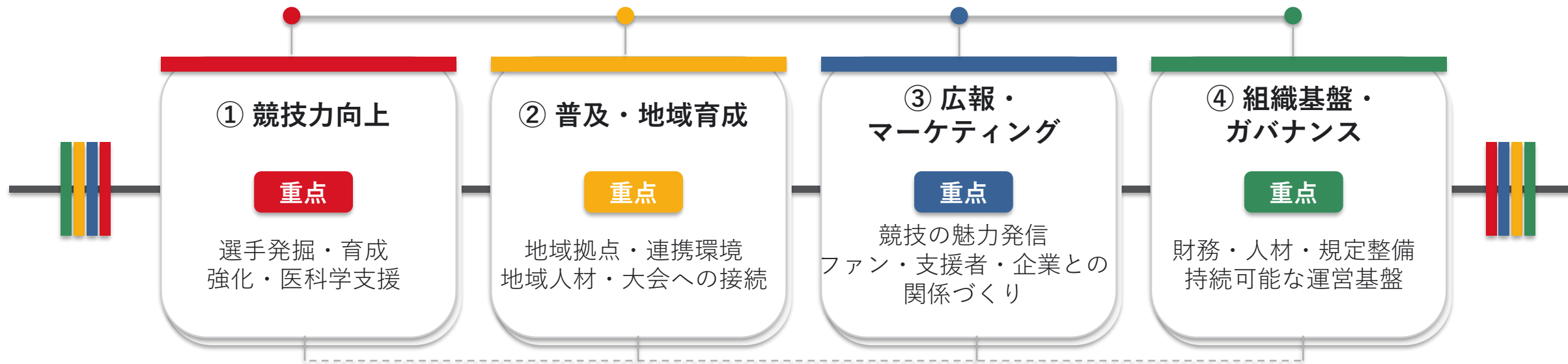
パラ・パワーリフティングのシャフトは、左右の重りをつなぎ、選手の力を受け止めます。
JPPFも、さまざまな人と力をつなぎます。
選手、コーチ、審判、スタッフ、地域、企業、ボランティア、応援する人など、
それぞれが力を発揮し、ともに大きな力を生み出せる存在を目指します。

自分の力だけを大きくするのではなく、互いの力を生かし、

全体としてより大きな力を生み出す



4つの戦略を連動させ、競技と組織の好循環をつくる



選手の挑戦と連盟の持続的成長

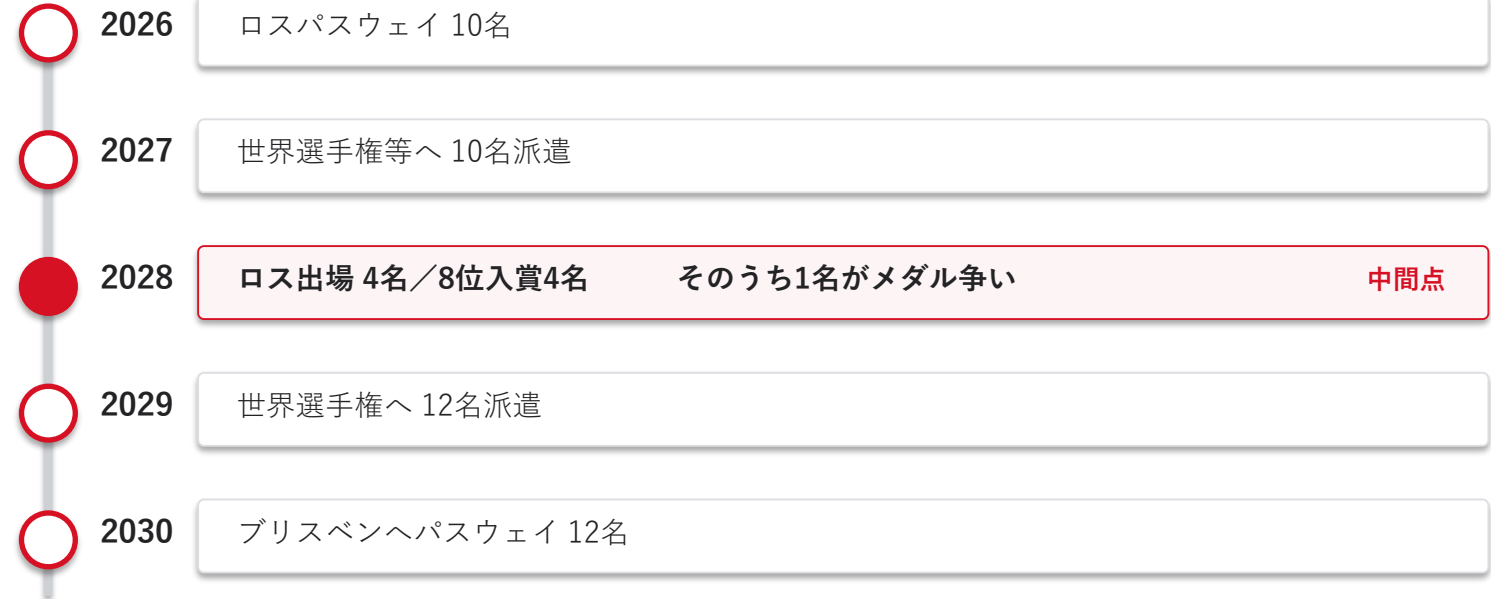
4つの重点戦略に沿って、現在地と5年後の到達点を整理する



ロス2028とブリスベン2032を見据え、選手と支える人材を育てる



目標・マイルストーン



主な施策（案）

- J-STAR等による新人発掘と育成合宿
- 強化合宿、地域練習会、国際大会への計画的派遣
- コーチ育成と全国の日常練習環境の整備
- 初心者・中堅・トップ別の育成プログラム
- 医科学情報の活用と個別強化計画



地域で出会い、続けられる環境を広げる

地域の拠点を「つくる」だけでなく「育てる」ことで、地域が主体となる継続的な活動へ



2030年

全国8ブロックすべてに、地域が主体となって継続的に活動する地域拠点をを目指す



8ブロック一律に新設するのではなく、既存拠点は育て、活動基盤が十分でない地域では新たな拠点形成を進める。

重点施策

- 単発の普及活動で終わらず、地域の日常活動へつなげる
- 各ブロックの現状に応じ、既存拠点の育成と新規拠点の形成を段階的に進める
- 都道府県パラスポーツ協会・センター等との連携を強化し、選手・指導者・スタッフの発掘や地域活動につなげる
- 地域の基盤が整った段階で、継続可能な大会開催等へつなげる



競技の魅力を伝え、応援・支援の輪を広げる

広報とマーケティングは別機能として整理しつつ、中長期計画上は一つの重点戦略として連動させる

広報 |

伝える

競技・選手・大会・連盟活動の魅力を
分かりやすく継続的に発信する

マーケティング |

つなげる

競技の魅力を起点に、ファン・支援者・企業との
関係を育て、応援・参加・共創につなげる

主な取組（案）

- 競技・選手・大会の継続的な情報発信
- 競技の魅力を伝え、ファン・支援者との接点を広げる
- 企業・団体との関係構築と協賛の継続・新規開拓
- 協賛メニュー・営業資料・関係先リストの整備・更新
- 寄付・会費等を含む多様な支援につながる企画・仕組みづくり

※ 協賛金獲得は「広報・マーケティング」の主要施策とし、その成果をJPPFの「持続可能な財務基盤」につなげる。



持続可能な運営を支える基盤を整える

財務・人材・ガバナンス・業務基盤の4領域で、到達点と施策を対応させる

財務基盤

2030年の到達点

自主財源を拡大し、収支改善を進める。
持続可能な財務基盤を確立する。

主な施策

予算・実績・資金繰りを定期確認。
財務目標を設定し、毎年度進捗を検証。

人材・事務局

2030年の到達点

事務局2名体制＋外部人材を活用。
特定の人に依存しない運営体制へ。

主な施策

業務の見える化・マニュアル化・
役割分担を整理し、必要な外部
人材を活用

ガバナンス

2030年の到達点

コンプライアンス・研修・自己点
検を毎年度実施する運営を定着

主な施策

コンプライアンス委員会を年1回以上
開催。研修・自己点検・規程確認
を毎年度実施。

業務・意思決定

2030年の到達点

規程・組織図・業務手順を整備し
責任と意思決定の流れを明確化

主な施策

権限・役割・意思決定手順を明確化。
規程・組織図・業務手順を毎年度
見直す。

2026～2030年度



ロス2028を中間点に、4つの重点戦略を段階的に進める

	2026	2027	2028	2029	2030
競技力向上	ロスへ向けた 選手育成・強化	国際大会で 経験を積む	ロス2028 成果を目指す	検証・次世代 育成へ	ブリスベンへ 基盤をつなぐ
普及・地域育成	既存活動地域で モデル形成	既存拠点を育て 準備地域へ展開	地域ネットワークと 継続環境を拡大	地域主体の活動を 全国へ広げる	全国8ブロックで 継続的な地域拠点
広報・マーケ	競技・選手の魅力を 継続的に発信	見る・知る・応援する 機会を広げる	互いの強みを生かせる パートナーづくり	応援・共創が循環 する関係を育てる	互いの力を生かす 関係が社会に広がる
組織基盤	財務の見える化 規程・役割を整備	業務標準化・ 事務局体制を強化	財務・ガバナンスを 中間評価・見直し	自主財源・人材・ 承継基盤を強化	事務局2名＋外部人材 持続可能な運営へ

※ 組織基盤は、2026年の「見える化・整備」から、体制強化・中間評価・承継を経て、2030年の持続可能な運営へつなげる。

財務改善計画 2026–2030

現在地

財務項目・管理方法が統一されておらず、収支構造や事業ごとの必要経費が不明瞭。

財務状況を見える化し、理事会、各部門と共有し、収支改善と安定した財源確保を進める。

2026

財務状況の
見える化

財務項目・管理様式を
統一誰が見てもわかる
財務へ

2027

財務改善の実行

必要経費と財源を精査
支出適正化・財源確保
を実行

2028

収支均衡を実現

単年度収支±0以上を
目指す

2029

安定財源を強化

助成金の安定確保自主
財源を継続的に拡大

2030

未来への投資を
可能に

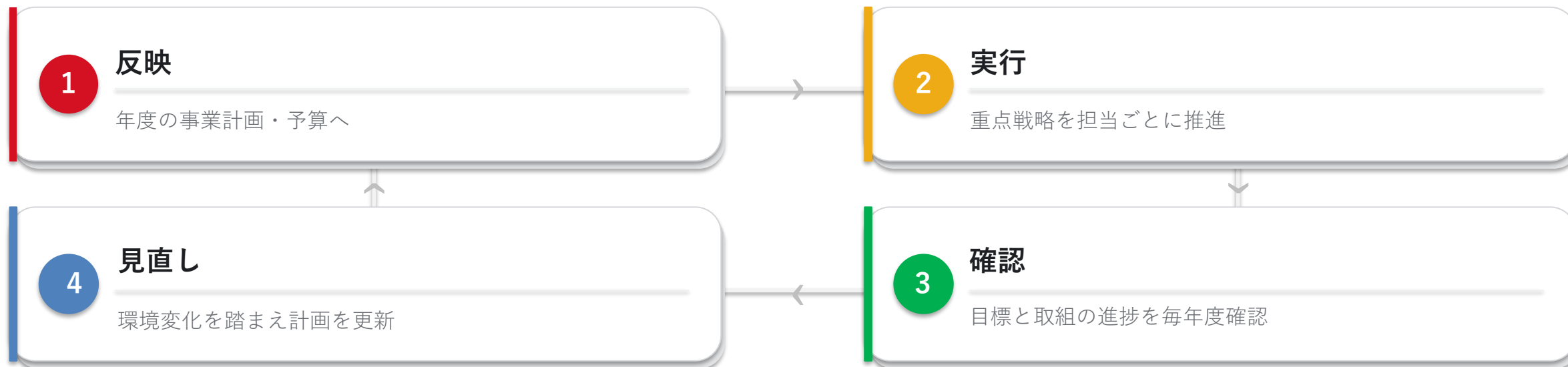
必要な事業へ計画的に
資金を配分できる
財務体制へ

2030年の
目指す姿

安定した財務運営のもと、競技力向上・地域育成・人材など、
必要な事業へ計画的に投資できる持続可能な財務基盤を確立する。

安定的な助成金の確保と自主財源の拡大を両輪に、毎年度、財務状況を検証しながら着実に改善を進める。

計画を毎年度の事業・予算に落とし込み、実行を確かめる



競技環境・財務状況・社会環境の変化に対応し、計画を“作って終わり”にしない

むすびに。 ともに、次の5年間をつくる

「筋肉で日本を持ち上げる」というビジョンのもと、次の5年間の歩みを進めていきます。

本計画は、2026年度から2030年度までの連盟の方向性を示すものです。
目標の実現には、選手やコーチだけでなく、審判、スタッフ、ボランティア、
地域の関係者、企業・団体、ファンなど、パラ・パワーリフティングに関わる
多くの皆さまの協力が欠かせません。

本計画を「作って終わり」にすることなく、毎年度その進捗を確認し、
必要に応じて見直しながら、一つひとつの取組を着実に実行していきます。

そして、競技に挑戦する人、支える人、応援する人の輪をさらに広げ、
パラ・パワーリフティングの可能性を次の世代へつないでいきます。

